

## 2 中学校編

- ◇ 教科にかかわる実践事例 ..... 1
- ◇ 領域にかかわる実践事例 ..... 5
- ◇ その他の教育活動にかかわる実践事例 ..... 18

実践名：「行政相談～みんなの声がちまを変えら～」

教科：社会（3年）

- ◎ 実施期日 平成27年 1月20日
- ◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・地域における住民参加には、様々な方法があることを理解する。（もとめる）
- ・行政相談出前教室を通して、今後自分がどのように地域社会や行政にかかわっていくかを考える。（かかわる）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 行政相談出前教室オリエンテーション（1時間）

- ・自分たちの生活と行政とのかかわり、住民の声を生かすまちづくりについて理解し、地域で住民がまちづくりに参加している事例を調べる。（もとめる）

2 行政相談出前教室（1時間）

- ・総務省東北管区行政評価局の行政相談官と松山地域の行政相談員を講師として、「行政のしくみ」や「行政相談制度」について説明を聞く。（もとめる）
- ・行政相談から、地域の住民の声を生かして解決された実際の事例について、説明を聞く。（もとめる）
- ・身近な地域で、日常生活の困っていることや疑問に思っていることを考えて発表したり、講師の行政相談官に質問したりしてみる。（かかわる）
- ・今後、行政相談制度を活用してみたいことや、地域をよりよくするために、自分たちで何ができるかを考え、話し合う。（かかわる）

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・社会科の授業で住民がまちづくりにかかわるようになった経緯に触れておく。
- ・将来、有権者になったときのために「行政」についての知識や情報を身に付けさせ、中学生である自分たちに何ができるかを、具体的な地域の課題に気付かせたり、考えさせたい。
- ・講師としてお招きした行政相談官や地域の行政相談員に質問したり相談したりすることで、よりよい地域づくりを具体的に考えてみる。

◎ 実践を振り返って

**成果** 行政について、「行政相談出前教室」を行ったことで、自分たちの生活と行政とのかかわりや安全安心なよりよい地域づくりに関心をもたせることができた。

**課題** 講師の方々との打合せから、事前学習を行い生徒に出前授業に臨ませたが、考えをまとめ、話し合ったり、表明したりする時間が十分ではなかった。まず、身近な地域でできる具体的なものを考え、行動させる手立てを工夫していきたい。



## 教科にかかわる実践事例 大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「少年の日の思い出」

教科：国語（1学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年12月1日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる**・はたす)

- ・ 物語を読み、登場人物の心情の変化について表現に着目して捉えさせる。また、他と意見交換をする学習を通して、自分の考えを伝えながらも、互いの考えを受け入れる大切さを学ばせる。（かかわる、もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 本文を通読し、登場人物の関係や場面展開を確認する。（1時間）
- 2 人物の様子や言葉、情景を描いた表現に着目して人物像を読み取る。（1時間）
  - ① 「僕」と「エーミール」の人物像が分かる台詞や様子を本文中から探す。
  - ② ①をもとに、読み取れる「僕」と「エーミール」の人間関係について、自分の言葉でまとめる。
  - ③ ②をペアで意見交換し、考えを深める。（かかわる）
- 3 場面の展開や人物の行動や心情を表す表現に着目し主人公の思いを捉える。（2時間）
  - ① 盗みをする前後の「僕」の心情を表す表現を本文から抜き出し、自分の言葉でまとめる。
  - ② ①をもとに班で意見交換し、考えを深める。（かかわる）
- 4 伏線を探し、この小説の構成で工夫されている点について考える。（もとめる）
  - ① 小説の前半部分から後半部分への伏線になっている表現を見つけ、構成の工夫について気付いたことを挙げる。
  - ② 主人公の心情に共感できる部分や、自分の考えを文章にまとめる。
  - ③ 主人公の生き方と自分の生き方を比較してまとめる。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

主人公の心情を捉えるために、表現に着目してしっかり読み取らせる。読み取ったことから主人公の生き方に自分なりの考えをもたせ、考えを深めさせる。また、他の生徒と意見交換を行い、さらに自分の考えを深めさせる。

◎ 実践を振り返って

**成果** 主人公の人物像について読み取り、生き方や心情を文章にすることで主人公の理解が深まった。さらに、班活動で意見を交換したり比較する活動を通し自分で気付けなかった心情に迫るとともに、自分の意見を深化させることができた。

**課題** 主人公の心情を理解するまでに至らない生徒がみられた。心情を理解することが主人公の生き方や自分の生き方を考えることにつながるため、指導を工夫する必要がある。

## 教科にかかわる実践事例 大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「Multi Plus 3 なりたい職業」

教科：英語（3学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年10月25日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・はたす）

自分の将来の夢や職業についての関心や意欲を高めさせる。また、発表を通して、自己理解や他者理解を深めさせる。（かかわる、もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 将来の夢や職業について考え、「なりたい職業」というタイトルで5文以上の英文を書く。（もとめる）

① 「なりたい職業」について Hop のモデルを読み、内容を理解する。

② StepのTool Box の語句や文章構成の例を参考にして、将来の夢や職業について説明する方法を学習する。

③ 「なりたい職業」というタイトルで、5文以上の英文を書く。

2 「なりたい職業」について発表したり、友人の夢について聞いたりする。（かかわる）

① 自分で書いた英文を基に、発表する。

② 友だちの夢やなりたい職業について興味を持って聞く。

3 友だちの発表を聞いて、グループで質問したり話し合ったりする。（かかわる）

Jump の質問の例を参考にして、グループになり、発表内容について質問したり、話し合ったりして、発表者の夢やなりたい職業について理解を深める。

4 文化祭の展示発表で、全員分の英作文を展示する。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

将来について考えさせるために、自分の夢や職業についてじっくり考えさせ、英語で発表させる。友達との夢やなりたい職業について、質問したり話し合ったりする場を設定する。



◎ 実践を振り返って

**成果** 将来の自分の姿をじっくり考えることができた。既習事項や Hop や Step の表現を参考にして英文を書くように指示したことで、ほとんどの生徒が積極的に表現しようとしていた。グループで質問したり、話し合ったりすることで、自分の書いたものに自信や自己肯定感をもたせることができた。

**課題** 将来の夢やなりたい職業が決まっていない生徒に対して、職業関連の単語を多く紹介するなど、視野を広げるための手立てが必要であった。

**その他** 3年生は進学について考える機会が多いことから、自分の将来について向き合う機会が多い。お互いの発表を聞き合うことや、文化祭で展示発表することで今後の励みになった。



## 実践名：「小・中英語活動交流会」

教科：英語（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月6日

◎ 志教育にかかわるねらい（ **かかわる** ・ **もとめる** ・ **はたす** ）

- ・ 自分の願いを英語で表現する活動を通して、夢や目標をもって生きることの大切さを考えさせる。（もとめる）
- ・ 小学生に対し、中学校での英語学習への円滑な導入とするとともに、中学生にとっては後輩の学習活動の補助をすることで、先輩としての意識を高めさせる。（かかわる）
- ・ 3つの小学校と小野田中学校の児童・生徒が授業実践を通して協力する中で、新しい仲間のよさを知り、認め合うことで信頼と友情を深める機会とさせる。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

### 1 事前指導

- ・ 小学生…ワークシートに将来の夢や中学校でやってみたいことを記入させる。
- ・ 中学生…小学生が記述した内容を英語でどう表現するかを考え、当日の交流会でスムーズに教えられるように練習させる。また、中学校入学へ向けてのメッセージを考えさせる。

### 2 小・中英語活動交流会（主な活動）

- ・ QandA…中学生が英語で質問し、全員でYes、Noで答える。体を動かしながら英語で会話することで、楽しく和やかな雰囲気を作る。
- ・ 学習のねらい…「将来の夢ややってみたいこと」を英語で言えるようにする。
- ・ ペア活動…中3が小6へのアンケートを基に、意味、語彙、発音などを教え、サポートする。
- ・ インタビュー活動…中3がペア以外の小6に英語で質問し、小6が答える。
- ・ 紹介スピーチ…中3がペアの小6児童の紹介を英語で行う。

Q: インタビューは英語で質問するのですね？  
 中学生: Hi, I'm ... What is your name?  
 小学生: Hi, I'm ...  
 小学生: What do you want to be?  
 小学生: I want to be a ...  
 中学生: OK, that's nice.  
 中学生: What do you want to do at junior high school?  
 小学生: I want to ...  
 中学生: OK, good. That's great.

中3: Hi, I'm ...  
 This is ...  
 His/Her name is ...  
 He/She wants to be a ...  
 He/She wants to ...  
 His/Her dream is ...  
 Thank you.

### 3 事後指導

- ・ 小・中学生ともに事後アンケートを行い、活動を振り返らせるとともに、今後の中学校生活や英語学習への意欲をもたせた。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 生徒に英語で進行させることにより、3年間の英語学習の成果を示すとともに、英語で表現することの楽しさや達成感を味わわせ、主体的な英語学習につなげる。

◎ 実践を振り返って

**成果** 事後アンケートで、8割以上の児童が「自分の夢や目標を英語で言えた」と回答しており、中学校入学に対する不安の解消とともに、英語学習への意欲の向上につながった。中学生にとっては、学習した英語を使うことの楽しさを味わうとともに、人に教え、役割を果たすことの大切さや難しさを実感できる活動となった。

**課題** 英語教育における小・中連携を推進するためには、更に具体的かつ継続的なシステム作りが必要である。また、小・中・高を通しての英語教育の目標を見据えたカリキュラムの作成も考えなければならない。

## 領域にかかわる実践事例

大崎市立古川中学校

### 実践名：「まちづくり学習」

領域：総合的な学習の時間（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月11日～11月29日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・「古川のまちづくり」に関する学習を通して、地域の課題と展望を理解させ、社会のために自分達ができること、すべきことを主体的に探求させる。（もとめる）
- ・学習の成果を地域に向けて発信する活動を通して、社会参画の意識を涵養する。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

**事前指導・講演会**（9月11日）

今後の学習の流れを説明するとともに、行政と商店街からそれぞれ講師を招き、「大崎市中心市街地の将来ビジョン」について、講演をしていただく。

**学習1** 「まち歩き」（9月24日）

グループごとに中心市街地を、教師が設定したコースを選択してまち歩きをする。

**学習2** 「得た情報を共有しよう（シェアリング）」（9月25日）

前時の「まち歩き」で得た情報・感想を学級内で伝え合う。

**学習3** 「地域の人たちの話を聞こう」（10月2日）

FYIS支援者等を講師に招き、教育ファシリテーターの「みらいずworks」のファシリテーションのもと、以下の活動を行う。

- (1)まちづくりトーク「地域の宝物、課題、中学生に期待すること」
- (2)グループでのワークショップ「地域の人たちの話を聞いて、感じたこと・気付いたこと、テーマとして取り上げたいこと」
- (3)講師より感想やアドバイス
- (4)振り返りとまとめ

**学習4** 「得た情報を共有しよう（シェアリング）」（10月8日）

前時の「まちづくりトーク」で得た情報を学級内で伝え合う。

**学習5** 「古川の未来を考えよう」（10月10日）

「みらいずworks」のファシリテーションのもと、以下の活動を行った。

- (1) ビジョンワーク：まち歩きをしたコースに関して将来に向けた提言を考える。
- (2) グループワークと発表「中心市街地のビジョンを実現するために、やりたいこと、できそうなことを検討する」
- (3) 振り返りとまとめ

**学習6** 「ビジョン実現のために」（10月15日）

グループ毎に話し合いを深め、ビジョン実現のための提言の準備をする。

\*その後、文化祭（10月25日）と「大崎市きょうDOのまちづくり文化祭」（11月29日）で発表を行った。

◎ 実践を振り返って

**成果** 中心市街地のビジョンの実現に向けて、地域の課題と展望を理解し、現実性のある具体案を生徒が主体的に考えることができた。「大崎市きょうDOのまちづくり文化祭」では、発表をするだけでなく、異年齢集団によるワークショップに参加し、まちづくりについての自分の考えを積極的に発信することができた。地域の方々から今後の本校のまちづくり学習への多くの期待が寄せられた。

**課題** 昨年度は「地域を知り、課題を見つける」こと、今年度は「地域への発信」をテーマに行ってきた。その結果、地域に提言することができたが、今後は中学生としてできることを考え、その提言を実現させていくことが課題である。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立古川北中学校

### 実践名：被災地ボランティア活動

領域：総合的な学習の時間（1、3年）

- ◎ **実施期日（期間）** 3年生 平成26年10月23日  
1年生 平成26年11月28日
- ◎ **志教育にかかわるねらい** **かかわる**・**もとめる** **はたす**  
・支援活動を通して、社会の一員としての自覚と奉仕の精神を養う。（はたす）  
・被災地の方々とのふれあいを通し、人の痛みや温かさを感じる心を養う。（かかわる）
- ◎ **具体的な学習・活動の流れ**
- 1年
- |   |         |  |
|---|---------|--|
| 1 | ガイダンス   | 目的、日程の確認等  |
| 2 | 手遊び歌講習  | 妖怪ウオッチ体操、手遊び歌の習得   |
| 3 | 事前指導    | 集合、隊形、点呼等の実際   |
| 4 | 被災地支援活動 | 保育所や幼稚園の訪問(各クラス2園を訪問(渡波、矢本))<br>話を聞く会(仮設大橋団地)、門脇小学校付近の見学 |
| 5 | 振り返り    | 支援活動の生徒個々の振り返りとまとめ、礼状の作成                                 |
| 6 | 発表会     | 支援活動の発表会   |



◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

ユネスコ・スクールとして、ESDにおいて重視する観点

①人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育む

②他人、社会、自然環境との関係性を認識し、つながりを尊重できる個人を育む  
を重視し、「防災・福祉」を中心テーマとする3年間を見通した系統的な体験活動を柱とし、参加体験型、現実的課題、継続的な学びのプロセス、多様な立場・世代の人々との学び等の「学びの方法」を取り入れる。

◎ **実践を振り返って**

**成果** 体験学習をすることで、「防災・福祉」の難しさを理解すると同時に、人とのつながりや責任、目標の達成感を味わわせることができた。また、個々の将来に向けて、社会の一員としての個々の姿の追求に意欲をもたせることができた。

**課題** 「防災・福祉」をテーマに各学年の実践を積み重ねているが、被災地ボランティアを核として、地域の方々との連携を深め、地域社会に貢献できる中学生の育成を目指して計画・実践していきたい。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立古川南中学校

### 実践名：「立志式」

領域：学級活動（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成27年2月19日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる**・**はたす**

- ・地域の人々や生徒相互の活動の中で、社会で求められる人間像や役割をとらえさせ、より前向きな目標をもち自ら考え人生を切り拓こうとする意欲を高める。（もとめる）
- ・これまでの人生において支えてくださった方々への感謝の気持ちを表現し、伝える機会とする。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1. 概要説明とテーマの設定

「立志式」に臨むに当たっての目標や内容についてとらえさせ、発表するテーマについて考え決定する。

2. 色紙の作成

発表するテーマに基づいて自分の思いを漢字「一字」に込めて色紙に書く。

3. 手紙の作成

これまで自分を支えてくれた人たちに感謝の気持ちを手紙で伝える。

4. 「誓い（発表原稿）」の作成

発表原稿（内容）を考え、当日の流れや入退場などのリハーサルを行う。

5. 立志式当日の様子

当日は一人一人しっかり発表することができ、大きな自信になった。

6. 振り返り

アンケート・感想の記入を行う。



◎ 指導のポイントや手だての工夫

- ・目標達成のためには、理解と覚悟が必要であるという観点から、社会の中で求められる人間像とは何かということを考えさせた。その際、これまで学習してきた「志教育講演会」や「職場体験学習」などを振り返らせながら理解させるように努めた。その上で今回「誓い」を発表することで、「覚悟（強い意志）」をもたせたいと考えた。

◎ 実践を振り返って

**成果**

- ・一人一人それぞれの抱負や感謝の言葉を漢字一字に込めて色紙に書かせ、保護者・同級生・教員の前で発表することで、自分の思いをより明らかにすることができた。
- ・保護者側からすると、普段見られない自分の子どもの姿を見ることができ、感激していた保護者が多かった。

**課題**

- ・授業参観の日に設定したため、発表の時間が固定されており、発表だけで終わってしまったので、余裕がなかった。

**その他**

- ・この「立志式」は事前指導を朝の会や帰りの会、自習時間などを使って行ってきた。今後は、学級活動（余剰時数を含め）の指導計画への位置付けや、3年間の志教育を系統的に考えて計画・改善を図っていきたい。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「地域ボランティア活動」

領域：総合的な学習の時間（1学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月5日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる** **はたす**

- 自分たちが住む「鹿島台」について見直し、地域のために自分たちができるボランティア活動を考えさせることにより、公共心を養うとともに、地域社会へ貢献できる態度や実践力を身に付けさせる。（かかわる、はたす）  
今回の活動は地域の美化活動の取組。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 地域ボランティア活動オリエンテーション（1時間）
  - ・地域ボランティア活動の意義について学習
- 2 自分たちにできる活動を検討、精選（1時間）
  - ・親切の押しつけではなくさらに実現可能な活動を検討
- 3 計画立案
  - ・グループ編制及び当日の動きについて計画（かかわる）
- 4 実践
  - ・クラスごとに計画した活動に取り組む（かかわる・はたす）
- 5 事後学習（1時間）
  - ・活動のまとめ、レポート作成



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- どのようなボランティア活動を行うことが地域に貢献することになるのか、生徒たちに考えさせることにより、主体的に活動に取り組ませるようにする。また、活動中に出会う地域の方々といさづを交わすことにより、地域の一員であることを自覚し、さらにしっかり活動に取り組もうとする意欲につなげる。まとめにおいては、活動への取組をしっかり振り返らせるとともに、日頃地域に見守られて生活できていることに気付かせ、周囲への感謝の気持ちや地域との連帯感を深めることにつなげる。

◎ 実践を振り返って

**成果** 地域に貢献できることとして、生徒自身が考えて取り組んだ活動であったため、生徒は意欲的に活動に取り組んだ。拾ったゴミの量や種類も場所によって異なることを実感したようだった。事後のレポートからも、日頃は考えたこともない地域のゴミに関する課題に気付く生徒が多く見られた。

**課題** 中学生だけでできることには限界があるため、生徒から出たアイデアの中には取り組むことができないものもあった。また、2学年の職場体験と同日であるために、活動範囲や活動内容が限定される。

**その他** 経費がかかる活動に対して予算が組めると活動の幅が広がる。

## 領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「職場体験学習」

領域：総合的な学習の時間（2学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月5日・6日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる・もとめる・はたす**

- ・ 自分の夢や適性について、じっくりと向き合わせた上で職業を選択する。また、自分の職業観に合った訪問先への電話連絡や訪問計画を生徒自身に立てさせ、実践させることで、自主性と実践力を養わせる。活動を通して、地域への関心をもたせるとともに、将来の職業に対する夢と希望につなげさせる。（かかわる、もとめる、はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 自分の適性や職業観について考え、自分と向き合う。  
(かかわる)
- 2 職業の種類とその内容について理解し、自分の将来像を考える。(もとめる)
- 3 自分の職業観に合った、体験したい地域の職業を選ぶ。  
(もとめる)
- 4 電話のマナーや社会人としての言葉遣い等を指導した上で、体験したい職場に訪問の連絡をする。(かかわる)
- 5 職場体験を通して、集団や社会の一員としての役割や責任を果たす。《体験学習》(かかわる・はたす)
- 6 体験活動を振り返り、班毎に各自の学びをまとめる。  
(かかわる)
- 7 体験した訪問先に礼状を書く。(かかわる・はたす)
- 8 体験のまとめを班毎にプレゼンテーション形式で発表する。  
《授業参観》(かかわる・もとめる・はたす)



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 職場体験は地元の大崎地区の訪問先に限定し、地域で活躍する人々の様子を目の当たりにできたり、実際に生徒自身が共に活動できたりする訪問先で活動させる。  
活動後は、お世話になった方々に礼状を書かせ、人と人とのかかわりの大切さについて実感できるようにする。また、お互いの活動内容や学んだことをプレゼンテーション形式でまとめ、体験学習発表会を行わせる。生徒はもちろんのこと、保護者にも参観していただき、職業に対しての考え方、感じ方などの共有化を図る。

◎ 実践を振り返って

**成果** 自分の将来像を含めて、自分の興味・関心を基に体験する職業を選択し、生徒が希望する訪問先にアポイントメントをとったため、ほとんどの生徒が積極的に活動することができた。体験当日の活動では、実際に職場の方とかわり合いながら活動する場面が多かったため、働くことのやりがいや楽しさを感じた生徒が多数いた。活動を通して、学校生活の中でも学んだことを生かそうとする意識や、これからの自分の生き方や進路選択について真剣に考える生徒が増えた。また、3年間を見通した志教育の一環での活動であるため、前年度の取組を生かした活動ができた。

**課題** 訪問先の都合で、自分の希望の職種を体験できない生徒がいたことや、時間設定が難しく、予定通りに活動できない班もあった。

**その他** 生徒の活動について、それぞれの訪問先に事後アンケートをお願いした。実際の活動の様子や取組を評価していただくことで、事後指導に生かすことができた。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「ものづくり体験」

領域：総合的な学習の時間（3学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月5日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる**・はたす)

- ・ 地域の協力者や高齢者との交流の中で地域のために支え、活動していく意義を理解させたり、自分の生き方について考えさせたりすることで豊かな人間性を育ませる。  
(かかわる、もとめる)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- ・ 地域に伝わる伝統活動や文化的な活動を地域の方々との交流を深めながら体験する。  
地域の方々を講師に招き、わらじづくりや陶芸、勾玉づくりの3つのコースから1つを選択し、ものづくり体験を行う。(かかわる)  
自分が地域の一員として何ができるのか、「みやぎの先人集」を活用した道徳との関連を図り、自己の生き方を考える。(もとめる)

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

1 指導のポイント

地域の高齢者や関連機関の方々との交流の中で、地域の方々の子どもたちへの思いに触れ、個と社会との関係について再認識し、社会の一員としての生き方を考えさせる。

2 指導の工夫

① 事前指導

- ・ 活動内容を伝えるとともに、それを支えてくれる公民館や大崎市文化財課の方々、鹿島台わらじ会の協力があることを伝える。

② 当日の活動

- ・ 会場毎に講師の先生から挨拶をいただくと同時に、協力への感謝の念を伝える場を設ける。
- ・ コース毎に小グループを編制し、交流しやすい環境をつくる。

③ 事後指導

- ・ 講師の先生方へお礼状を作成する。
- ・ 道徳との関連を図る。



◎ 実践を振り返って

**成果** 地域の方々との交流を深めながら、作品ができた充実感を味わった生徒が多かった。自分たちのために、地域の方々ボランティアで協力していただいたということを知り、感謝の念を深め、その後のお礼状作成にも意欲的に取り組んでいた。

**課題** 年々、人材の確保が難しくなっている。特に鹿島台わらじ会については、会員が現在3名しかおらず、今後の継続自体が困難になると考える。

**その他** 体験活動だけに止まらず、地域で活躍するの方々との交流活動というところえの中で、「みやぎの先人集」を活用した道徳との関連を図りながら進めた。

## 領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「地域合同防災避難訓練」

領域：学級活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年10月28日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 学校と地域関係機関が一体となった避難訓練・防災訓練を行うことで、地域全体の防災に対する意識を高めると共に、他者や社会の安全に貢献する心を育むことをねらいとする。（かかわる、もとめる、はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 【第一部 避難訓練】

- 1 東日本大震災と同程度の地震、火災を想定した避難訓練を行う。
- 2 保護者や行政区長にも案内を出し、保護者には生徒の引き渡しの方法、行政区長には避難所についての説明を行う。
- 3 各講師（古川消防署志田分署員、鹿島台消防団員等）から講評を聞く。（かかわる）

#### 【第二部 防災訓練】

- 4 各学年毎に分かれ、保護者を交えた防災訓練を行う。  
（かかわる、はたす）

① 1学年 水消火器による初期消火訓練  
煙中体験

② 2学年 身近なものを使用した止血法  
傷病者搬送訓練

③ 3学年 洪水シミュレーション図上訓練

- 5 各講師（古川消防署志田分署員、鹿島台消防団員、社会福祉協議会）から講評を聞く。（かかわる）
- 6 教室に戻り、反省や感想を記入する。（もとめる）



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 訓練を避難と防災に分け、第一部を地震及び火災に対する避難訓練を行い、第二部を各学年ごとに防災教育にかかる防災訓練として行った。関係機関や保護者、地域の参加協力を得て実施した。
- ・ 防災訓練は各学年毎にテーマを設定して実施し、学年が上がるにつれて、身近な人や地域のために貢献するにはどのような技術を身に付けておくと良いのか、あるいは、災害時にどのような考えをもっているべきなのか考えさせた。  
また、避難訓練後に保護者の代表や行政区長に感想を話してもらうことで、地域の方々から中学生に求めていることを理解させるようにした。

◎ 実践を振り返って

**成果** 消防署、鹿島台消防団、大崎市社会福祉協議会等の講師の方々から専門的な知識や技能の指導をしていただいたことにより、生徒は意欲的に取り組んでいた。  
関係機関の方からの指導を受けたり、保護者や行政区長に参加してもらったりすることで、改めて地域の方々から支えられ、気にかけて生活していることを実感していた。

**課題** 地域と連携した、さらに効果的な訓練について検討する必要がある。

**その他** 学校周辺の地域住民の協力を得ることや行政区毎の自主防災訓練への生徒の参加など活動の機会を増やしていくことが必要である。



## 実践名：オープンスクールにおける いい音楽の日「音楽の集い」の披露

領域：学校行事（全学年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成26年10月2日
- ◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）
  - ・オープンスクールにて「音楽の集い」を入学予定である中学校区の6年生に披露することで、中学校生活における生徒の自主活動の様子を知ってもらうとともに次年度は仲間として活動に加わってほしいという願いを伝える。（かかわる）
  - ・先輩が主体となって活動することで、中学校生活のあり方を先輩に示すという役割を果たさせる。（はたす）
  - ・全校合唱を行うことで、全学年がかかわってスケールの大きい響きをもとめながら、合唱のもつ調和のすばらしさと創造する充実感を味わわせる。（もとめる）
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ
  - 【場所】 体育館にて
  - 【音楽の集いの内容と流れ】
    - 全校合唱「COSMOS」への取組を披露する。
    - ①指揮者、伴奏者を中心とした合唱練習活動
    - ②パートリーダーによる練習中の姿勢や歌い方についての指導
    - ③「COSMOS」合唱
  - 【集いに向けての準備】
    - ・全校合唱プロジェクトリーダー(PL)を結成する。
    - ・朝の活動や放課後の活動を通して、PL中心に自主的に縦割りパート練習を行う。
    - ・PLから選出された指揮者、ピアノ伴奏者を中心に合唱練習を行う。
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
  - ・特にプロジェクトリーダーを募集し、指揮者・伴奏者・パートリーダーという役割を確認し、それぞれがどのように合唱づくりにかかわるかを指導する。活動の定着度を見ながら段階的に選曲や練習計画をリーダー中心に行わせていく。



### ◎ 実践を振り返って

#### 成果

- ・日頃の「いい音楽の日」における取組の一場面を小学生に知ってもらうことができた。
- ・全校合唱を小学6年生に聴かせるという目標をもつことで、新たなかかわりに向けて合唱を行う意義を感じさせることができた。

#### 課題

- ・PLの自主性をいかに育てていくか、また全校合唱を行うことでお互いのつながりをどのように感得させるか。
- ・他に実践している学校などの情報を集め、より自校化した全校合唱のあり方を探らせた。

#### その他

- ・「一人ではできないが、人と人がかかわることのできる」という体験を学校集団生活の様々な場面で経験させたいと考える。



## 実践名：「救急救命学習」

領域：総合的な学習の時間（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年7月7日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 救急救命の学習を通して、地域社会での自己の在り方を考える。（もとめる）
- ・ 万が一の場合に備え、習得した技能を生かし、救急救命活動を地域防災の一助とする。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 事前学習（1時間）

- ・ 救急救命についてのビデオを鑑賞し、応急処置に関する知識を深めるとともに、生命の大切さを学ぶ。

2 応急処置や救急救命に関する講話を聞く。

- ・ 鳴子消防署職員から早期に救急救命を行う意義についての講話をいただく。

3 心肺蘇生法やAEDの使用方法について実習する。

- ・ 8名程度のグループを編成し、グループごとに鳴子消防署職員から応急処置の説明を聞く。その後、人形を使って、生徒一人一人が実際に心肺蘇生法やAEDの実習を行う。講習会の最後には、生徒一人一人に実技試験が課せられ、合格者は講習修了証を取得する。

4 事後学習（1時間）

- ・ 体験を振り返り、地域での自分の役割や今後の地域社会との関わり方を考える。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 指導していただく鳴子消防署職員から現場にかかわる話を聞き、救命の現状やその大切さを考えるきっかけとする。また、自分と地域社会とのかかわりを振り返り、地域での自分の役割を考えさせる。



救急救命についての講話



心肺蘇生法とAEDの実習

◎ 実践を振り返って

**成果** 命を救う現場で日々活躍している消防職員の方々に直接指導していただくことで、生徒たちの救急救命への関心が高まった。また、実際に生徒一人一人が実習することで、命の大切さを改めて知るとともに、他を思いやる共助の心を育む一助となっている。

**課題** 単に技能の伝達のみにならないように、自分の命の大切さや人の命の重みを考える機会としていきたい。また、今後も継続していくことで、地域の一員として、地域を愛し、地域に貢献しようとする態度を育てていくことが大切であると考えている。さらに地域と連携を図った志教育を推進していきたい。



## 領域にかかわる実践事例

加美町立中新田中学校

### 実践名：「これからの生き方を考える」

領域：総合的な学習の時間（2年）

◎ 実施期間 平成26年12月3日～平成27年2月5日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 講演を聴き、将来の生き方について関心をもたせ、健全な職業観や勤労観を育てる。  
(もとめる)
- ・ 講演を聴き、地域との関わりや周りの人との関わりについて考え、自己理解を深める。  
(かかわる)
- ・ 将来に向けて計画を立て実践することの大切さを学び、自主性を養う。  
(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ（7時間扱い）

1 「これからの生き方を考える」のガイダンス（1時間）

- ・ 7時間の学習活動について確認し、今後の見通しをもつ。

2 「将来について考えよう」と題して講演会（2時間）

- ・ ハローワーク古川の学卒ジョブサポーターによる中学校卒業後の進路や就職に必要な知識などについて、演習を交えた講演を聴く。

3 「自分の夢」について作文（1時間）

- ・ 講演を基に自己の将来について考え、作文を書く。

4 自己の将来を表す「漢字一字」で表現（1時間）

- ・ あらかじめ漢字を考えておき、色紙に漢字一字を筆で書き、将来の夢や抱負、生き方を含めて発表原稿を考える。

5 「志」の発表会（2時間）

- ・ 学級毎にステージに上がり、一人一人が色紙を持ちながら将来の夢について発表する。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 5月に実施している「職場体験学習」や3学期に取り組む「修学旅行に向けて」を含めて未来設計学習Ⅱとして活動している。年間を通じて、地域とのかかわりや生き方、将来について考えさせる活動としている。

◎ 実践を振り返って

**成果**：今年度に企画し、実施した活動である。講演を聴いて、自分の考えを漢字一字で表現する活動を通して、自己の将来について真剣に考える姿が見られた。

**課題**：ガイダンスで将来について考える活動をすることを説明したが、自己の将来を思い描く力には生徒個々に差があり、考えを深めさせる場面の設定の仕方や個別の支援の仕方を検討する必要がある。

**その他**：次年度からは、3学年で実施している「ライフプランニング」を2学年で実施し、より一層将来に目を向けさせる活動内容にしようと考えている。

## 領域にかかわる実践事例 浦谷町立浦谷中学校

実践名：「アルカス<sup>さくら</sup>咲楽隊」 領域：特別活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年3月～常時

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・~~もとめる~~・~~ほたす~~）

- ・もとめる…ボランティア活動を積極的に行うことで母校や地域を愛する心を育てる。
- ・はたす…校内や地域においてボランティア活動を行うことで集団の一員としての自覚を高める。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 事前学習…アルカス咲楽隊の趣旨及び活動参加の呼びかけ方法の確認

- ・生徒集会…活動の趣旨と参加の呼びかけを行った。

2 活動内容…各種ボランティア活動

- ・城山公園清掃…4月の「さくら祭り」を前に、訪れた方が気持ちよく桜を見ることができるよう、町の地域のボランティア団体の方と城山公園のゴミ拾いを行った。
- ・町内の清掃活動…夏季休業日を活用し、町内の公園や駅周辺のゴミ拾いを行った。
- ・その他…毎朝の挨拶運動や校地内でのボランティア清掃を行った。

3 事後学習…振り返りの場の設定及び広報活動による拡大の呼びかけ

- ・振り返り活動…参加した生徒に感想文を書かせ、意義について確認し次の意欲につなげた。
- ・広報活動…どのような活動を行ったのかを様々な方法で他の生徒に伝え、「自分も参加してみたい」という意欲の高揚につなげた。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・手挙げ方式…教師からの働き掛けを行いながらも、生徒自身が課題に気づき、主体的に取り組むことができるよう、生徒会執行部を中心に手挙げ方式で活動への参加を募った。
- ・校外への発信…地域の方々からの評価をいただくことで生徒たちの自信につながると考え、地域の様々な場に出向き、生徒たちの活動について理解を深めていただいた。

◎ 実践を振り返って

**成果**

- ・参加している生徒を中心に、活動の意義への理解を深めるとともに、委員会活動や学級活動において「学校をより良くしていこう」という気運の高まりが感じられた。
- ・咲楽隊の活動を学校内外で実施し、生徒がそれに対する評価をいただく場面に多く参加することで自覚とやり甲斐をもたせることができた。

**課題**

- ・執行部以外の生徒にとっては活動にどう参加してよいか分かりづらいことがあった。生徒個々が隊員の一人であるという自覚がもてるような適切な教師側の指導の工夫が必要である。
- ・主体性の向上が重要である。地域や学校の課題について検討することも咲楽隊の活動であることを教師側が押さえ、生徒の課題意識を掘り起こすことでより主体的な活動にしていくことができる。



実践名：「美里町未来プロジェクト」

領域：総合的な学習の時間（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年7月～12月

◎ 志教育にかかわるねらい（ **かかわる** ・ **もとめる** ・ **はたす** ）

- ・ 自分の住んでいる美里町の現状を知り、さらに町を活性化させるための提言をすることを通して、町づくりに参画する気持ちをもつ。（かかわる、もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 「美里町未来プロジェクト」についてのオリエンテーションを聞き、今後の見通しをもつ。
  - ・ 美里町のよさや課題を、自分たちで考え、それを付箋紙に記入する。その付箋紙を模造紙に貼ってグルーピングする。
- 2 取り組むテーマを決める。
  - ・ 美里町の課題について、どのようにすれば改善できるかを考える。または、美里町のよさを更に伸ばす方法を考える。
  - ・ 図書室、インターネット、美里町の広報誌等で情報を収集する。
- 3 プレゼンテーションについて確認する。
  - ・ プレゼンテーションのターゲット（審査員）や目的を考えながら、プリントにまとめる。
  - ・ 外部講師を依頼し、実際に職場で行っているプレゼンテーションを見せてもらう。また、プレゼンテーションを行う際の技術や心構えについて指導してもらう。
- 4 提言を立案するグループ編制をする。
  - ・ 自分が取り組みたいテーマの下に、立案するグループ（4名程度）を編制する。
- 5 美里町への提言を考える。
  - ・ テーマに関する人や団体に訪問し、インタビューしたり、アンケートを採ったりして情報収集する。
  - ・ 「美里町の現状」についての把握を行い、「美里町の理想の姿」を考えた。その理想に近づけるための手段（提言）を考える。
- 6 プレゼンテーションに向けて、発表の準備をする。
  - ・ プレゼンテーションソフトのパワーポイントに、発表するキーワードや資料をまとめる。
  - ・ 審査の観点である「声の使い方」、「文章の構成」、「ボディ・ランゲージ（アイコンタクト等）」の練習をする。
- 7 美里町への提言をプレゼンテーションする。
  - ・ 審査員を、美里町町長、町議会議員、教育長、プレゼンの講師とし、審査用紙を用いて審査をした。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 国語の授業でも学習したプレゼンテーションの技術を取り入れ、話す力をさらに深めさせた。また、美里町の方にインタビューする機会を通して、今までとは違う視点からふるさとのよさや課題点を捉えさせた。

◎ 実践を振り返って

- 成果**
- ・ 審査員を外部の方に依頼したことによって、生徒たちは美里町の活性化に向けて意欲的に取り組んでいた。また、プレゼンテーションの技術も、地域企業の方に教えてもらったことにより、真剣に話やパワーポイントの資料提示の技術を身に付けようと努力した。
  - ・ 提言をまとめるために、友達、地域の方、教師と関わりながら活動を進めることができた。
- 課題**
- ・ 放課後を使ってプレゼンテーションの練習をすることがあり、今後は設定された時数内でできる内容を検討していく必要がある。

## 領域にかかわる実践事例 宮城県古川黎明中学校

### 実践名：ソフィアプラン 職場体験学習

領域：総合的な学習の時間（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月13・14日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・はたす）

- ・生きがい、やりがいがあり、自己を生かせる生き方や進路を、多様な選択肢と可能性の中で考えさせる。（もとめる）
- ・将来の職業や生き方について考えさせ、その実現に向けて、学業や学校行事に精一杯取り組ませる。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 1 事前学習

- ・心構えやマナーについて講義を受ける  
講師：本校キャリアアドバイザー
- ・体験先の希望調査
- ・体験先決定
- ・電話にて打合せ（準備物、体験時間等）

#### 2 職場体験学習

- ・2日間の職場体験学習を行う。  
（小学校、幼稚園、市役所、病院、警察署、消防署、図書館、農業試験場など）

#### 3 振り返り

- ・お礼状の作成
- ・職場体験で学んだことを新聞形式でまとめる
- ・作成した新聞をクラス内で発表、掲示



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・就職活動の支援をしている本校キャリアアドバイザーから話を聞くことで社会で必要とされる人材や、社会人としての最低限のマナー等をより詳しく学ぶことができる。
- ・自分の将来を見越して職業を選択するようアドバイスする。
- ・電話の応対やお礼状など、社会で必要とするスキルを教える。

◎ 実践を振り返って

#### 成果

実際に職業体験をすることで、将来の職業についてより具体的に考えるようになった。礼儀や挨拶が日常的にも大切であることを感じ、学校生活でも「一日一善活動」として生かすことができた。

#### 課題

生徒が希望する職業が本校周辺にないものもあり、すべての生徒が希望通りの職種を体験することができいこともあった。



## その他の教育活動にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

### 実践名：「鹿島台わらじまつり」

その他の教育活動：生徒会活動、吹奏楽部活動

◎ 実施期日（期間） 平成26年8月14日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる・もとめる・はたす**

- 地域の協力者や高齢者との交流の中で地域のために支え、活動していく意義を理解させたり、自分の生き方について考えさせたりすることで豊かな人間性を育ませる。

(かかわる、もとめる、はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 地域に伝わる伝統活動や文化的な活動を地域の方々との交流を深めながら体験する。  
ステージライブでは吹奏楽部による演奏発表を行い、わらじパレードでは地域の方々と共に大わらじ担ぎと鹿島台音頭の舞踊に参加した。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

1 指導のポイント

地域の高齢者や関連機関の方々との交流の中で、地域の方々からの生徒への思いに触れ、個と社会との関係について再認識し、社会の一員としての生き方を考えさせる。

2 指導の工夫

①事前指導

活動内容を伝えるとともに、それを支えてくれる公民館の方々の協力を得て公民館において練習を行う。

②当日の活動

会場毎に講師の先生からご挨拶をいただき、浴衣の着付けやオリジナルTシャツの着用を行い一体感をもたせる。

コース毎に小グループを編制し、交流しやすい環境をつくる。

③事後指導

講師の先生方へお礼状を作成する。  
道徳との関連を図る。



◎ 実践を振り返って

**成果** 地域の方々との交流を深めながら、「祭り」という地域行事に参加でき、盛況であったことで充実感をもった生徒が多かった。地域の活性化のために、自分たちの存在意義と有用感を深めることができた。

**課題** 婦人会の会員減少に伴い、今後の踊りの後進への指導や、交流自体が難しくなっている。中学校から、吹奏楽部と生徒会を中心に参加したが、他の一般生徒の自主的参加を促していきたい。

**その他** 地域の方々との交流活動というとらえの中で、体育祭や文化祭などの学校行事の場での縦割り活動に生かしていくことが大切。